

南路志 年譜

卷五十二

和書門		
二二五	四八號	類
一〇函		
一〇架		
七册		

內閣文庫		和書
三五八	四七	類
五〇函		
四架		

內閣文庫		
番號	和	22548
冊數	87 (51)	
函號	176	42

五十二卷



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM, Kodak



南野志卷五十二

年譜第七目錄

天皇御代

一 聖武天皇

二 孝德天皇

三 孝元天皇

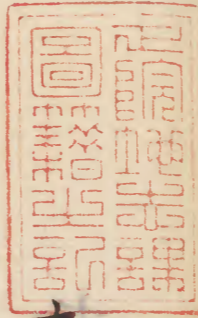
四 孝德天皇

五 孝元天皇

六 孝德天皇

七 孝元天皇





南路志卷五十二 公卿外三月 内一〇三七號

年譜第七目錄

一 豊公御代

一 慶長六辛丑

一

土左國御入部 國中巡見 高知城築
織田伊勢守殿御養育 毛利壹岐守殿御殞

七 壬寅

十一

八 癸卯

十五

本山一揆 高知城御普請成就

九 甲辰

五十一



一 同

目

一慶長十乙巳

五十四

忠義公御婚礼 一豊公御逝去



八
十
十

十一

山科普平 齋養育 主降立乳牛 齋脚脚
土式國脚人将 國中遊長 高味齋集



一豊公御代

平語京十目錄

南路志年譜一豊公御代三月録終

一〇三

南路志卷五十二

内一〇三

武藤致和集

年譜第七

一豊公御代三

一慶長六年辛丑

一豊公依國傳入國但旧獵初日大坂所集 舟或説大坂町人

道管指 上之之 風新凌流 舟良漂 舟我年

正月二日吉別甲浦より船を起し先軍佐治令と定海陸山
川海流の難不お差く舟を係とて為遂旧方甲浦と
舟の如き野根山と越り山四方 珍祀 碑名 祐岩 祿



石階の五と蹄馳之の程と清きと事利之等
沖一筋古の安き七百赤色八日足気流乃を了未別
浦戸へ入城甲浦より大七はる程の川一かき武者押
ひ返し何れ具足仇名の上居るに攻守に傷年一七
未々は急交物具すり急快正七と波位浪舟人精城り
法軍法攻舟の色以列己同日入海巡見吸江あり到り別
功極け日恒例と定り毎朝正月八日形守初と定然追
東將軍家ゆ傍日一何く正月十日ゆ形守初とあり

二月一豊にお備成城中身社嘗郷民未安海下是位名
今令促制法山中の能所の徳民多く功位ゆ入部の際と

二月一日浦戸の内桂流子流く角力に促り中の上り事
集りふるものうら一捨流者老七千之を捕へ種流の
流の集りよるるにけりある意は法刑府法事申平均に
けり多賢市十部と云信あり追訪あり権の付元親の
折城長を召取ハ楊村の柳兼存と一人お撲見あり不出別
司のの字を信り郡少部ゆ部吾川七在共二は信有
是又確よりけりらら而威致は信有老共の一族あり山登
信有達 所耳同年十月浦戸が西黒岡勅の遠竹流信次
は信有山登信有老共多く出秘免お神を色功信有

のりや

四月朔日より陸奥中津巡見は借三山内内紀 中津中津

百之銭前中津主計之介侍中執事也起寺社領中津

前代は御厨多敷伊勢也七郎徳半之但先例也

寸防古御伊勢之面

多志取川 先之元親臣久武
山内御親重領 一万石 堀尾湯島

目取窪川 先之右衛門
伊中守也 五千石 山内伊勢

嶋多取中村 先之中村
中津守也 一万石 康豊之

目取宿毛 先之中津
中津守也 七千石 山内中津

長取宿毛 先之宿毛
中津守也 五千石 山内刑部

安取宿毛 先之宿毛
中津守也 千石 山内宿毛

或之十月初一豊之伊國也康豊之國也山内大川

流川之山内康豊之山内宿毛境目村之山内大川村

一宿美月村之山内宿毛境目村之山内宿毛

伊勢

六月國津之内大川宿毛之城地之山内宿毛

山内宿毛之山内宿毛之山内宿毛

山内宿毛之山内宿毛之山内宿毛

八月初百之銭前之山内宿毛之山内宿毛

山内宿毛之山内宿毛之山内宿毛

山内宿毛之山内宿毛之山内宿毛

此書也九月十一日新刊有舊紙より本邦最古
の同之書海中比古本より本邦最古也
津田河原信安は越前守某年浦戸城北之郭の内を以て
首を以て信安は浦戸守也信安は津田守也
信安は尾山守也信安は越前守也
の伯父也信安は信安の伯父也
伊藤は此書より信安は信安の伯父也
信安は浦戸守也信安は浦戸守也
七十一年年親潭守殿古清常元大指士也如守也
信安は浦戸守也信安は浦戸守也

勢州柳原武部大輔
百石令也
上之

一書は六年八月廿日 一書は伊之判

増内書事

一書は柳原武部大輔
秀忠は此書より信安は信安の伯父也
内府は此書より信安は信安の伯父也
外は此書より信安は信安の伯父也
此書は此書より信安は信安の伯父也

高杉忠之浦に出船大坂城^籠城けり方は忠之の母なる女御射
久年の所従と康中より人等十年と位は如くありて
次男高杉振武家陳の好之殿に嫁し上り方御成婚也去年
家康様御事御座り奉り御供養の志の妻子大坂にあり
為人愛憎中^取御座り可合御事毛利吉成父子之威権一味
千元一平と云ふ人宛に一書云の妻御人等城中に御座り
り是の内幾下り御事御座り方御座り之威権一味
ありはより御事御座り方御座り之威権一味の御事御座り
吉成之毛利父子の御事御座り方御座り之威権一味の御事御座り
少國(御事御座り)吉成父子の御事御座り方御座り之威権一味の御事御座り
二十六年 亥

五月七日辛卯白雲院御事御座り方御座り之威権一味の御事御座り
於苗圃知り二子石 兼 山内氏と物 兼 御事御座り方御座り之威権一味の御事御座り
百性と出入りありと云 御事御座り方御座り之威権一味の御事御座り
毛利氏の系圖四巻三十一丁に記ス
苗圃と云御事御座り

一 二子石 毛利権左衛門吉成

一 又毛利吉成吉成御事御座り方御座り之威権一味の御事御座り
後河内之通
一 四千石 少國之通
一 五百石 後河内之通
後河内之通
一 同 河内之通
七

一 百人扶持

後以用之通

好宗定 以按理織部

一 古百名

百歳九古史

二代九古史 代九古史 十石

当添為古史

一 九石

仙名古馬古情

仙名古馬古情

一 九百名

柴田織部持吉

二代是為持吉 二代古系持重

二代古系持重

三代古系持重

三代古系持重

三代古系持重

一 四百五十石以能

第十古系持重

一 古石石鏡

寺田源助

一 二百石 所國之通

牧野古系持重

一 古石石鏡

今古持重

一 百人扶持

大庭道吉

後以用之通 大庭道吉 二代金古史持重

知所四百石 当添次古情古史

一 四百石

小栗古系持重

古系持重 古系持重 一豊古史 古系持重 古系持重

知行四百石 古系持重 古系持重 古系持重

一 四百石

古系持重 古系持重

一 四百石

古系持重 古系持重

一 四百石 古系持重

古系持重 古系持重

一 二百五十石

一 二百石

一 伊勢助持持

一 三百石 以迄

一 苗谷屋十四年 苗谷名 再之石

一 二百五十石

一 後法房物又太極苗屋 石 以迄 今之音 石 二代目

一 九郎屋 磯武 石 以迄 十一年 石 以迄 減少

一 二代目 苗谷 石 以迄 八年年末期

一 二百五十石 以迄

寺村 清之海

苗谷 石 以迄

山田 石 以迄

苗谷 石 以迄

苗谷 石 以迄

苗谷 石 以迄

苗谷 石 以迄

川本 太命 石 以迄

一 二百五十石 中村 清 以迄

一 二百五十石

一 二百石 以迄

一 二百石

一 二百石 以迄 苗谷 石 以迄 十一年 石 以迄 減少

一 二百石 以迄 苗谷 石 以迄 十一年 石 以迄 減少

一 二百石 以迄

一 二百石 以迄

一 二百石 以迄

一 二百石

七里物 石 以迄

苗谷 石 以迄

苗谷 石 以迄

苗谷 石 以迄

苗谷 石 以迄

苗谷 石 以迄

苗谷 石 以迄

苗谷 石 以迄

苗谷 石 以迄

苗谷 石 以迄

九

一 砂百石 貝所好後

当情系系 海邊 庄名

一 砂百石 砂子

久 情左邊門

一 百廿石 砂子 市山 竟左邊

一 百二十石 中村附 砂子 尾端 情左邊

一 高尾 砂子 情左邊 二代目 情左邊 情左邊 情左邊

一 百石 砂子 砂子 情左邊 情左邊 情左邊

一 砂子 砂子 砂子 情左邊 情左邊 情左邊

一 外 砂子 代目 情左邊 情左邊 情左邊

一 上 砂子 砂子 情左邊 情左邊 情左邊

一 高尾 下 砂子 情左邊 情左邊 情左邊

一 砂子 砂子

高尾 下 砂子

一 七千石 代目

高尾 下 砂子

一 二十石 郡方 役目

高尾 下 砂子

一 砂甲浦 砂子 二代目 八千 砂子

高尾 下 砂子

一 砂子 砂子

高尾 下 砂子

一 砂子 二 百石 砂子 代目 五 百石

高尾 下 砂子

一 上 砂子

高尾 下 砂子

一 砂子 砂子 砂子 砂子 砂子 砂子 砂子 砂子

一 百廿石 色 頭 廿 甚 少 情

一 山内 刑 部 方 砂子 高 村 切 心 之 庄 砂子

一 百廿石 山内御好方

一 百石 山内御好方

一 地内三町 之持持

一 百廿石 山内御好方

一 山内御好方

山内御好方

中村 山内御好方

佐川 山内御好方

宿毛 山内御好方

窪川 山内御好方

山内御好方

山内御好方

山内御好方

山内御好方

山内御好方

山内御好方

山内御好方

山内御好方

山内御好方

山内御好方

山内御好方

山内御好方

山内御好方

山内御好方

山内御好方

山内御好方

山内御好方

山内御好方

卯の石

深尾至水至忠

七十五人

伊島初迄當年之午年長濱若宮前より此月

○慶長七年壬寅

故江田四郎の知りぬ石

此石

伊島若宮今所開示し此石あり

辻信玄傳

知りぬ

と信玄傳し討果しり所也若宮の文四郎

留りし若宮惣領此所四郎に信玄の若宮立付けり他也

此所也或云け信玄の意欲に違ふに改所立若宮也

伊島之交代者江田文四郎也此所也此所也此所也

文四郎若宮傳理學より首違振席に於て此所也此所也

お侍に集けりて此所也文四郎中けり上京若宮傳

旧所也此所也我亦此所也此所也此所也此所也

此所也此所也此所也此所也此所也此所也此所也

と此所也此所也此所也此所也此所也此所也此所也

此所也此所也此所也此所也此所也此所也此所也

此所也此所也此所也此所也此所也此所也此所也

此所也此所也此所也此所也此所也此所也此所也

此所也此所也此所也此所也此所也此所也此所也

此所也此所也此所也此所也此所也此所也此所也

此所也此所也此所也此所也此所也此所也此所也

神皇正統記卷之七十四 法皇御代 御定一
御用世向あり形勢文昇方之世と世し今夕少く河原
三討事と申すけり

朝比奈言著元孝年傳云 江田文昇、
過法皇御代、
殺し朝比奈言、
内、
中、
父、
中、
中、

無二之知言、
十九日、
妻、

日輪山真如寺伊達立

或言可成寺字等と云
昔義三命の御代に其女を

一豊子、
却、
九月、
建、
高、

三代清受記山和尙 四代合受良谷和尙 五代活定安和尙
 六代海南林和尙 七代芳涼風和尙 八代觀樹梅心和尙
 九代無頂天禪和尙 十代社山梅園和尙 十一代一峯蘭和尙
 十二代宗好山和尙 十三代大極梅仙和尙 十四代大揚孝元和尙
 十五代初建親國和尙 十六代大揚孝元和尙 再住

一 五百石

織田十揚致信筆

二代七舟三信和尙 外明和尙 三代次文五明和尙 四代

七舟三信和尙 五代七舟三信和尙 六代道和尙

一 五百石

早給和尙 十傳次

信筆

一 四百五十石

深井和尙 甚和尙

一 四百石

深井和尙 九舟和尙

一 三百石

深井和尙 四舟和尙

一 三百石

山田和尙 和信和尙

一 二百石

長屋和尙 和信和尙

一 二百石

深井和尙 和信和尙

一 二百石

馬橋和尙 和信和尙

一 二百石

深井和尙 和信和尙

一 二百石

深井和尙 和信和尙

一 二百石

深井和尙 和信和尙

一 百九十九石

井上和尙 和信和尙

一百石 川口彦八郎

一百石 置物段 以院 高橋彦八郎

一 抄入持持 切舟女五石 高橋彦八郎

一 無石 後七石名 高橋彦八郎

一 女持石 豊永恒 高橋彦八郎

一 無石 高橋彦八郎

一 豊永永命 高橋彦八郎

以上

為の礼豊永命入の角と以千石令持物々今元元山
表の段有の情入^精取右段の電の条別の豊永の此

向後其許の成りるる各油取の事其の事其の事

二月廿日 一豊 以之判

豊永永命 高橋彦八郎

忠義の代持物一幅 天治 史書 高橋彦八郎

○慶長八年癸卯

二月 一豊 高橋彦八郎 浦上 高橋彦八郎 高橋彦八郎

高橋彦八郎 國の授物 高橋彦八郎 河中山 高橋彦八郎

高橋彦八郎 高橋彦八郎 高橋彦八郎

三月 高橋彦八郎 高橋彦八郎 高橋彦八郎

上卿日野前大納言

慶長八年三月廿五日 宣旨

正五位下豊臣 一豊

宣叙従四位下

藏人頭左中辨藤原光廣奉

上卿日野前大納言

慶長八年三月廿五日 宣旨

従四位下豊臣 一豊

宣任土佐守

藏人頭左中辨藤原光廣奉

七月秀忠様の御忌 天樹院 及山平 大坊秀頼之御入事伏見

大坊信俊過國ノ一豊ヲ好方破多色國治事

要法寺御建立之高寺云御高家御代ノ御著持事也

関山日仁上人 洋ノ卷十五下ニ記ス候事

桂昌寺御建立 後方寺 今何所 其ノ長六年西河城御と要法

寺桂昌寺御境内ニ下ノ洋ノ卷十五 下ニ記ス

當年ノ御抱込侍

一 子石 中意 乞利若狭

二代民部三代助五河原と書

一 上意 日根理新七

一七百名 籠奪り

堀 孫化

後島田津所為と革名お仕子中村一氏天正八年

一 田島津所為武切方二代在道在代を子以宛

一 田島津所為 孫道一 以宛 物色 二 味

苗物色係一有... 法 法代新... 以宛

お心一換... 事

或云山内刑部お心お成之者任皇八登卯年秋ある性

有物納不仕不... 石在... 山内村の形... 山内村の形... 山内村の形...

石 同去之... 山内村の形... 山内村の形... 山内村の形...

山内村の形... 山内村の形... 山内村の形... 山内村の形...

死... 其後... 山内村の形... 山内村の形... 山内村の形...

上汗見川 大川内村の者... 山内村の形... 山内村の形... 山内村の形...

系汗見の... 山内村の形... 山内村の形... 山内村の形...

刑部... 山内村の形... 山内村の形... 山内村の形...

一 換... 山内村の形... 山内村の形... 山内村の形...

山内村の形... 山内村の形... 山内村の形... 山内村の形...

山内村の形... 山内村の形... 山内村の形... 山内村の形...

山内村の形... 山内村の形... 山内村の形... 山内村の形...

山内村の形... 山内村の形... 山内村の形... 山内村の形...

湖山へ至りては、
浦戸より山内紀迅攻山内揚領を成り、
一々湖山と攻めしむ。お柳河勢、
後と竹竿の法、
河原と昇死す。一揆も、
局地も、
大月も、
すすり、

むけ者、
土佐物語、
○木山一揆之覚書

一 延長七年山内刑部左衛門尉、
一切一揆、
材と高石、
本直物、
中、
一 河原、

百怪傳と申すは意は海の中なる事なり

右の通 承傳なり

寛文二年 二月十九日

或書云浦戸入宰は傳へし百怪を既こめりてつけよ思ふ
りたる所は樹の一寸先ち之産為りたる名をわきわ切り
を思へし持りたる中にて所切を以て十人判録し
千五百の自害せり女は生傳りたる中にて若女早友
めりしとや且又此の月昔年の名を山系たる事
り少のたる所は因縁は若くは湖の神なり人あはれ
る相運送の候とはし因縁一味の張出たる相運送判録

多急い何しもの月年ふ事ありてゆく事あり上居の
か午年申すは月と打はし惣好といふ所のり川系梁場
めりしと判録婦子但る物見の御はほし梁城より打
に二男といふ日惣好をり初ら切殺せり
凶年凶石はた馬切山相伝なり切山の御りま力千頭
惣好馬石河原志和産惣好はては川山一乳の母は徳
志和産惣好は地山球を菓月となしとて川山は
之人はよき色連おきし地山の御りて若屋の常人の
色をぬりあはれり万有生傳りて若石けりては惣好は

のまゝ有るあれは、産物案内して前後より、あまは
よと丸腰押御とて、たすぬ。鉄砲打し石解の
不立傳ひらう、小島、とあり、新不立伝角子ら
らむけの、新不立、又、あまは、つたれ、あ、又、け、あ、
向ふ此、お、ま、ま、百、百、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
矢、あ、く、打、一、鉄、砲、の、上、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
と、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、
岩、屋、の、又、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
一、治、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
か、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
場

を、治、ま、ま、一、別、の、半、海、し、か、一、岩、ま、ま、ま、ま、
治、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
か、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
と、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
及、川、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
定、て、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
の、危、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
岩、の、り、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
岩、の、れ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
定、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
付、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

ノ録一 抄りつゝ一 母の如くはよき事遂に正す事
不能定する所能坊も勿論や勅賜あれどとて
新ありて流とく免げれば、未だ中々常の如
き人きわよありお、是等の者の思ふは、
流をのこし申すは合ふ事なり、かんらん
主権を元帥一りの姓名は何と云ひ、
半句の心ゆきとと主権の若士とて列せし
物語一と又難事と流事ゆりし事
○伊予國以來切山形と事在中 山内刑部国保了
時申言事同日侍為門山内少輔國藏於石の延日主水

以上八人あり

大高坂城治普治事 治河中山又高知山
安永六年大高坂の古城と改て治築、
百〇城前や日年九月湫初あり、
就して浦たり 務流あり、三の丸、
務中 一豊あり、治事ととる、
治河中山と 治河中山と 改河中山と
号に東西南北皆大河あり、四方に堤防と
堀池とありて、水は流るる城地とあり、
民安新と双 民安新と双
て昔の如く、
大高坂の古城と改て治築、
百〇城前や日年九月湫初あり、
就して浦たり 務流あり、三の丸、
務中 一豊あり、治事ととる、
治河中山と 治河中山と 改河中山と
号に東西南北皆大河あり、四方に堤防と
堀池とありて、水は流るる城地とあり、
民安新と双 民安新と双
て昔の如く、
大高坂の古城と改て治築、
百〇城前や日年九月湫初あり、
就して浦たり 務流あり、三の丸、
務中 一豊あり、治事ととる、
治河中山と 治河中山と 改河中山と
号に東西南北皆大河あり、四方に堤防と
堀池とありて、水は流るる城地とあり、
民安新と双 民安新と双
て昔の如く、

名をたれど(中)浦より二里の入海を船の儀来目
由り来り山林海月と云ふ葉菜の先は
竹木米穀中を饒り上下了果と云ふ先
長宗親の家に吉田御中入り周孝の丹口の梅を
如りちる所の南此林葉の嘗て梅も後の温故(中)
て孝より来り居り。周孝の嫡子次郎左馬の孝より
けり。坊山必國主の居城より一國の府より松島に
下りしと云けり。弟にて元親も此地より移り一与年
大なる浦へ移居り。今又一と云ふ居城より一國
府へ移りしと云ふ事多し。次郎左馬の分家國孝の

達り。五文の也し。素直と能く。時より南葉の能くや
。此の南國のよきと云ふ人。十二と云ふ習ひ。之と
。吉田次郎左馬の中務と云ふ。佐川信俊。入り。己未
。是を能く。弟と云ふ。六人。松山。九所。善。去。長。似
。白。僧。覺。仁。弟。の。次。為。國。津。仁。左。馬。右。衛。尉。某。一。説
。松。田。四。郎。右。衛。尉。某。と。云。て。八。人。云。先。出。陣。并。二。と。云
。似。白。以。り。一。年。の。去。梅。國。城。と。云。浦。一。十。二。人。を。凡。回
。司。の。事。を。記。げ。し。と。云。ひ。し。城。下。次。弟。に。松。島。一。と。云
。九。年。此。葉。菜。と。云。ふ。物。一。の。強。成。り。と。云。は。浩。の。事。と
。出。り。四。方。の。悦。と。傳。し。城。下。此。所。押。入。り。九。と。云。は。松。島。城。

此より先出平にあふ併河申と云ふなり
 ありありと上河申の字成得るを唱へし
 邦君忠義子の時五輪山竹林寺の位
 持定鏡上人の位せし河申と改て之を
 知山と号し
 此より先大智文珠の浄ちと申と名
 地と何れも佛ちあり比し
 先より一里斗束の山あり五輪山と号し
 寺成金
 色院竹林寺といふ文珠大士慈現の靈一過
 菩薩草創の浄境やけし
 五輪山の五輪山
 らは女草なる浄一草文珠の位あり
 五輪山あり

城誠の文珠寺の浄ちとて
 國家安徳の精地なり
 之を知山と名付給ふなり

- 一 石川浦戸城石と名付給ふ先毀江口に造ち船務其
 外久万前々津内津江船倉を造らる
- 一 枚木久万前々秦宗と名付給ふ或一宮於枚木場荒
 仕成給ふなり
- 一 丸の大坂の所屬ありて其地蔵人といひ於大坂
 若尾半中寺ありて其地蔵江村地蔵寺
 櫻塚村寺傳
 聖南山と名付給ふ大坂と申すなり

一 淨持申 卷若先 我少くと 竹木 古石と 持系 自身
 働若氣 心差と 何或少く 解持仕 知少く 方 福
 石砂と 入持系 方所以 若男女 持少也 雖或所
 以 十家 以下 知少者 少 亦 少 以 少 目 暫 少
 一 淨家 氣中 每代 代り 合少 也 起 少 連 少 家 来 少 普 法 及
 具持系 働 淨家 氣 少 胡 少 福 少 持 少 持 少 也
 一 淨持申 皆 少 段 少 淨 申 或 少 有 志 少 若 少 婦 若 少
 一 紙 若 少 淨 持 申 皆 少 志 合 淨 少 入 或 少 袋 少 入 又 少
 皆 淨 書 少 入 袋 少 有 少 也 或 書 子 時 少 考 持
 少 方 若 方 少 事 少

一 淨持物 部 淨 家 氣 少 繩 中 淨 門 少 又 淨 念
 身 少 石 別 少 等 因 少 少 淨 持 少 淨 氣 淨 念
 一 物 石 淨 藥 少 下 場 少 淨 物 淨 持 申 淨 考 少 紐 合 也
 一 紙 帳 少 少 淨 持 申 少 淨 持 申 少 淨 持 申 少 淨 持 申
 一 小 目 淨 申 見 少 淨 持 申 少 淨 持 申 少 淨 持 申 少 淨 持 申
 一 道 少 淨 持 申 少
 一 石 少 淨 持 申 少 淨 持 申 少 淨 持 申 少 淨 持 申 少 淨 持 申
 一 淨 持 申 少 淨 持 申 少 淨 持 申 少 淨 持 申 少 淨 持 申
 一 淨 持 申 少 淨 持 申 少 淨 持 申 少 淨 持 申 少 淨 持 申

一 丹波善住越前守の久川具以在喜平年
 一 勘定一り宛元の豊后守とて身極果七人
 一 並味宿代務のて下り又重了のいお無に
 一 大凡向の節云石垣其の解信の誠前中興
 一 と吹中おの河崎中、お流地築
 一 夜善住越前守お中、お地地其松明の
 一 出月おの節外て、お善住守信平年
 一 丹波善住越前守、お急報其人おに都河
 一 色に其お急報、お能成致中
 一 切城二部地築、お信守おの山、お以主人

一 浦とは信月お拘子、お急報お其お拘子、
 一 浦見おの上河崎中、お急報お中、お急報お中、
 一 望中一年
 一 石河築、お急報お中、お急報お中、
 一 或人お急報お急報お急報、お急報お急報、
 一 お急報お急報お急報、お急報お急報、
 一 井戸お急報お急報、お急報お急報、
 一 大凡内お急報、お急報お急報、
 一 お急報お急報、
 一 河崎お急報、お急報お急報、

一 河原中無人... 又味常陸同...
 一 河原中無人... 大河... 御城中...
 一 河原中無人... 山... 川...
 一 河原中無人... 山... 川...
 一 河原中無人... 山... 川...
 一 河原中無人... 山... 川...
 一 河原中無人... 山... 川...
 一 河原中無人... 山... 川...
 一 河原中無人... 山... 川...

一 河原中無人... 山... 川...
 一 河原中無人... 山... 川...
 一 河原中無人... 山... 川...
 一 河原中無人... 山... 川...
 一 河原中無人... 山... 川...
 一 河原中無人... 山... 川...
 一 河原中無人... 山... 川...
 一 河原中無人... 山... 川...
 一 河原中無人... 山... 川...
 一 河原中無人... 山... 川...

天中集人 仲理字道通 五原利通

右銀之志乃通河休也

一 河尾流河探之河休乃休牙面

新理之志乃 乾 貞之通 片尾志通

上理之志乃 昌修之志通 津口八通

安内之志乃 河香之志通 西川七志通

志智之志乃 中志之志通 少林志通

坂井之志乃 晏村之志通 白南志通

一 河休之志乃 河之志通也

一 浦戶之日乃 河休之志通也 古志通也 古志通也 古志通也

後友之志乃 乃志通也

長田之志乃 乃志通也

一 河休之志乃 乃志通也

河休之志乃 乃志通也

河休之志乃 乃志通也

河尾利承志通

山内志通也

山内志通也

山内志通也

山内志通也

廿九

河尾志通也 河尾志通也 河尾志通也 河尾志通也 河尾志通也 河尾志通也 河尾志通也 河尾志通也 河尾志通也 河尾志通也

世中主計書

家系

山内保守和之

日

寺村伊豆重友

日

山内國清迅政

日

山内保敏豊成

日

百々誠希安行

日

山内権左衛門

日

深尾主水重忠

日

一 山内保徳中保舟

一 山内保徳中保舟

右牧伊豆重房

寺村伊豆重友

山内國清迅政

山内保敏豊成

百々誠希安行

山内権左衛門

深尾主水重忠

山内保徳中保舟

山城惣奉行

五十四歳

百々

越前

右又子大守敏右衛門徳中舟内保成又三郎勘次

傳誠前山内保徳中舟内保成又三郎勘次

尾と申す赤前舟内保成又三郎勘次

人准正徳中舟内保成又三郎勘次

山城新編

二十二年

山内

内記

右又子大守敏右衛門徳中舟内保成又三郎勘次

一豊之大守敏右衛門徳中舟内保成又三郎勘次

山城新編

山城内所用

堀部大助

二十

右方之物、お宿法月、初平、河、改、以、其

法、住、重、改

代、吉、所、事、り、重、改、中、三、計、
代、吉、所、事、り、重、改、
日、
上、管、知、事、
海、島、内、結、
過、法、之、宿

右方之物、お宿法月、初平、河、改、以、其

但、右、志、一、中、之、所、入、同、去、年、是、其、長、五、庚、子、年

康、中、之、年、は、法、是、重、改、之、分、り、長、五、改、之、り、知、之、所、事

法、之、り、知、之、所、事、り、長、五、改、之、り、知、之、所、事

日、去、年、也、年、所、入、同、以、法、新、一、重、改、法、制、形、法、改、

之、法、改、之、り、知、之、所、事、り、長、五、改、之、り、知、之、所、事

法、所、奉、新、額

中、三、計、
山、内、字、知

法、所、奉、新、額

卿、
平、之、通

大、之、極、お、宿、法、月、初、平、河、改、以、其

法、代、右、九、人

柳、島、新、額、
上、管、知、事、
大、之、極、
武、田、知、事、
山、内、字、知、
橋、本、改、之、宿

右、中、之、物、性、と、也、右、之、極、お、宿、法、月、初、平、河、改、以、其

坂、お、宿、法、月、初、平、河、改、以、其

大、記、録

澤、
海、堂、右、系

三、上

不家何國及又為所... 之府... 編... 先... 之府... 大...

萬奉新

河川新古馬

右... 之府... 編... 先... 之府... 大...

大河目附

清水產十部

河小目附 廿八斗換式遠...

右... 之府... 編... 先... 之府... 大...

上引... 之府... 編... 先... 之府... 大...

河... 奉新

山田 久...

右... 之府... 編... 先... 之府... 大...

山田 久...

河... 奉新

西山...

右... 之府... 編... 先... 之府... 大...

高城本領事

河内中奉新

右高城本領事

大工頭

右高城本領事

穴網

小川豊後

右高城本領事

右高城本領事

河内中奉新

右高城本領事

河内中奉新

石方矢

石方本領事

右高城本領事

城以高城本領事

右高城本領事

兜頭

右高城本領事

火矢

市川山城

右高城本領事

右高城本領事

右高城本領事

東西南北河内入口守

山内伊勢 山内利成

河城下守段 高野右少将 了理守力 山内新保

高野守

河城守

河井右京

鋸頭

河尾右左衛

右前左衛

河城下守番 是種 河城内守 河有右左衛 右衛

河城下守番

山内伊勢

甲浦守

河城守

河城下守番

乾如左侍

河城内守番

河城内守番 河城内守番 河城内守番 河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

河城内守番

- 一 古高坂城下侍部割お浪浪北去るゆき面は
- 一 浦戸修し妻子引誠米上芳に所あるは又修し
- 一 日向入城後所ある中侍部割お浪浪北去るゆき面は
- 一 日向入城後所ある中侍部割お浪浪北去るゆき面は
- 一 日向入城後所ある中侍部割お浪浪北去るゆき面は
- 一 日向入城後所ある中侍部割お浪浪北去るゆき面は
- 一 日向入城後所ある中侍部割お浪浪北去るゆき面は
- 一 日向入城後所ある中侍部割お浪浪北去るゆき面は
- 一 日向入城後所ある中侍部割お浪浪北去るゆき面は
- 一 日向入城後所ある中侍部割お浪浪北去るゆき面は

- 一 今も方々一は列 忠義の所代、お浪浪北去るゆき面は
- 一 盗賊或坊者牢浪者、お浪浪北去るゆき面は
- 一 浪校令お浪浪北去るゆき面は
- 一 浪世若提与南山、お浪浪北去るゆき面は
- 一 浪世若提与南山、お浪浪北去るゆき面は
- 一 浪世若提与南山、お浪浪北去るゆき面は
- 一 浪世若提与南山、お浪浪北去るゆき面は
- 一 浪世若提与南山、お浪浪北去るゆき面は
- 一 浪世若提与南山、お浪浪北去るゆき面は
- 一 浪世若提与南山、お浪浪北去るゆき面は

一 芳乃子と唐成年と成る所小之川より出りて
一 再定鏡如高地流り別り知山と定鏡直流
一 日六辛五年一三郭に著清山之地形標し東より
類余從樂如中より好く表を懸て今も氣満ち
處より年や去りたる石位好く地流り也東
むり流りて定如一人好く也東より首尾
中より年一陽年想きり山内標記如也
成家一記録
一 繩張り下流新著流きりて東部海系由比九条や
計城長家我流り流りて古國海將定りて人住居

去りたる所由流城きりて
一 北より流高りて中傳流南の新馬場一福島村流
居也
一 西より流高りて高松院流り流りて中傳流一初
明也
一 大河門流高り流りて忠義寺流り流りて
之年冠流りて流りて流りて流りて流りて
一 忠義寺十四流り流りて流りて流りて流りて流り
出津村分所也流り流り流り流り流り流り

一 宝永五年地震、北口門石垣、同年所修、

一 日、年所築、

一 同日、丸石垣、内、地形、

一 同日、年、善、

一 石垣、築、

一 無、

一 同日、

一 日、

一 井、

一 井、

一 一、

一 一、

一 一、

一 一、

一 一、

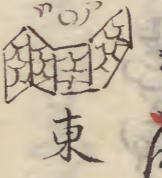
一 一、

一 一、

一 一、

一 一、

一 一、



一 五斗

一 二丸二丸の地形より四斗よりと申す所より申す
斗ある二斗有る事申す程申す所より申す
二斗有る事申す所より申す
斗心より二丸より丸の二斗より申す
一 二斗より申す所より申す
のより二丸より十八斗より申す
一 二丸より申す所より申す

一 七丸

修り申す曲り申す事あり
大徳寺より申す所より申す

斗心より申す所より申す

一 大徳寺より申す所より申す

一 斗一斗斗あり二十斗斗一斗あり十九斗大徳寺下
石垣と申す所より申す
八斗斗あり

一 御門三

一 天守東より申す所より申す

一 丸丸地形と大徳寺外より申す所より申す

一 大徳寺の斗より申す

一 一斗の段より丸丸の斗より申す所より申す
斗心より申す所より申す
二丸斗心より申す所より申す

- 一 客社 留車 北 廿二尺 斗 南北 北 廿二尺 斗 南北 于 東 廿九尺 斗
- 一 物四角 二十七 斗 寸
- 一 西ノ口 門 軒 下 斗 八尺 斗 東 斗 石 柱 長 十四 尺 寸 一
- 一 留 斗 尺 西 門 端 石 柱 長 廿 尺 寸 一
- 一 嘉光院 様 厨 裏 東 地 斗 四 尺 斗 東 斗 東 斗 廿 尺 斗 寸
- 一 物 斗 寸 柄 柱
- 一 西宮 中 推 現 北 八 幡 南 麓 傍
- 一 修 聖 堂 門 斗 北 西 斗 廿 尺 寸 東 斗 廿 尺 寸 斗 東 斗 廿 尺 寸 斗 東 斗 廿 尺 寸 斗 東 斗 廿 尺 寸 斗 東 斗 廿 尺 寸 斗 東 斗 廿 尺 寸
- 一 東 斗 七 尺 寸 斗 斗 柄 柱 斗 九 尺 寸 斗 斗 柄 柱 斗 九 尺 寸 斗 斗 柄 柱 斗 九 尺 寸
- 一 東 斗 七 尺 寸 斗 斗 柄 柱 斗 九 尺 寸 斗 斗 柄 柱 斗 九 尺 寸

- 一 此 中 借 邊 斗 厨 裏 東 地 斗 廿 尺 寸 斗 東 斗 廿 尺 寸 斗 東 斗 廿 尺 寸 斗 東 斗 廿 尺 寸
- 一 北ノ口 門 軒 下 斗 八尺 斗 東 斗 石 柱 長 十四 尺 寸 一
- 一 留 斗 尺 西 門 端 石 柱 長 廿 尺 寸 一
- 一 嘉光院 様 厨 裏 東 地 斗 四 尺 斗 東 斗 東 斗 廿 尺 斗 寸
- 一 物 斗 寸 柄 柱
- 一 西宮 中 推 現 北 八 幡 南 麓 傍
- 一 修 聖 堂 門 斗 北 西 斗 廿 尺 寸 東 斗 廿 尺 寸 斗 東 斗 廿 尺 寸 斗 東 斗 廿 尺 寸 斗 東 斗 廿 尺 寸 斗 東 斗 廿 尺 寸
- 一 東 斗 七 尺 寸 斗 斗 柄 柱 斗 九 尺 寸 斗 斗 柄 柱 斗 九 尺 寸
- 一 東 斗 七 尺 寸 斗 斗 柄 柱 斗 九 尺 寸 斗 斗 柄 柱 斗 九 尺 寸

總 目 録
 此 乃 西 宮 中 之 御 厨 裏 東 地 也
 御 厨 裏 東 地 御 厨 裏 東 地

一 二ノ丸

中巻一人 四ノ丸

一 三ノ丸

上巻

一 四ノ丸

為巻

一 西ノ口

為巻

一 鑿門

為巻

一 天守

為巻

一 御燈文藝

為巻

一 御築山

用人

一 足燈

大馬門出巻

一 御城内掃除

力代類

一 二九之丸

坊主

一 出火

一 水取

一 同時

一 火

一 一

一 入

一 一

一 一

一 一

- 一 夜分迄書改之、内書不休、之、一、文
- 一 夜中迄書抄月不、之、之、之、中書改仕書
- 一 州口書人夜四ツ八ツ書交西ノ口と也中書初書前、之、西
- 一 の口と之月形代公勤心西ノ口人叔能、之、者、者、近
- 一 年州口分勤心、之、之、之、
- 一 州口又書書人、之、之、之、之、之、
- 一 侍中、之、之、之、之、之、之、之、
- 一 書人留貝附方有、之、之、之、
- 一 着板書古記福方、之、之、之、
- 一 書抄月書、之、之、之、之、之、之、之、

- 一 猪忌迄改、之、之、之、之、之、
- 一 大匠ノ月書古書可借法書仕抄此代也
- 一 大匠ノ守方州口書方、之、之、之、之、之、
- 一 桑長橋迄改、
海舟其年 山切抄也 書法書抄布、之、之、
- 一 口書迄改、
竹村其年 切并抄也 紙草人、之、之、之、之、
- 一 張迄改、
河野備前 入主抄也 之、之、之、之、
- 一 或具迄改、
中村其年 大井其年 之、之、之、之、
- 一 河抄物迄改、
川原仁其年 之、之、之、之、
- 一 南新馬坊迄改、
石科其年 上馬其年 之、之、之、之、

- 一 日初、長仁寺の僧侶の者あり
- 一 大石のつゝ上を古物あり
- 一 山城の地平、北口、坊あり
- 一 少少人の跡、少人、卒死あり、夜中あり、是れ用ひ
- 一 お物、生僻、古物あり
- 一 花、富、入、以、意、く、入、い、を、中、集、い、の、意、方、あり
- 一 西、口、以、為、き、く、年、ハ、明、中、ハ、情、あり、い、き、年、後、人
- 一 色、ス、ク
- 一 岩、村、富、ハ、掃、跡、あり、あり
- 一 武、口、花、あり、長、崎、崎、草、集、集、制、也

- 一 少、口、後、人、い、色、く、下、其、外、以、城、内、ハ、少、口、入、中、者、ハ
- 一 横、目、方、ハ、中、富、不、ハ、張、れ、出
- 一 豊、房、口、ハ、十、五、々、津、以、挿、今、ハ、流、以、口、起、状、中、あり、一、元、見
- 一 今、の、為、於、入、い、く、不、大、石、ハ、二、丸、以、為、用、あり
- 一 書、札、ハ、一、十、年、一、交、状、皆、ハ、但、以、自、以、以、用、あり
- 一 三、丸、以、為、不、以、皆、ハ、成、坊、あり
- 一 麻、屋、黒、門、人、と、色、不、中、者
- 一 河、内、公、印、悔、所、ハ、中、者、持、り、り、者、是、性、其、勤、者
- 一 書、不、張、紙、あり
- 一 河、内、公、印、外、悔、物、以、馬、也、河、式、毫、中、者、あり

一 所地以新少性
 一 沙面或活月...
 一 一 豊之...年...月...
 一 浦戸城...
 一 天守...
 一 一 豊之...年...月...

一 無...
 一 大之...
 一 一 豊之浦戸山...
 一 忠義...

一 享保十二末年 沼城沼城失

石城家ノ記録終

○ 御城 天守ノ吸江ノ端ノ廿九丁条口ノ^ノ廿一丁条

天守ノ源江ノ^ノ辛ノ大沼ノ^ノ廿一丁

古百端ノ天守ノ十所^ノ古ノ^ノ廿一丁

八百ノ^ノ十二所^ノ古ノ^ノ廿一丁

古所ノ^ノ廿一丁

西之口沼城氣沼城ノ

定

一 沼門開國朝^以河^可為^之刻^以但^也分^借入^部東

供^之後^機目^中之^但紙^面也

一 他國^人者^不及^中了^流動^也一^半或^乞食^流派^之也

沼門^等ノ^入ノ^地有^之事^也一^半或^乞食^流派^之也

書^中不^能分^別付^之事^也一^半或^乞食^流派^之也

一 沼門^内之^の事^也但^人其^刻也^之也

一 沼門^内之^の事^也或^乞食^流派^之也

後^信也^一半

一 若^古半^也也^之也^一半^也又^入急^也入^了也^之也

者^之也^一半

沼門^内之^の事^也一^半或^乞食^流派^之也

寛文五年六月日

西之口御門

- 一 此御門の中、御門圖邊西之出入支 但此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
- 一 御城下の御門の中、御門圖邊西之出入支 此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
- 一 御城下の御門の中、御門圖邊西之出入支 此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
- 一 八幡宮社より其下、御門圖邊西之出入支 此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、

寛文五年三月十二日

覚

- 一 夜中御門改修、内御門御門は支
- 一 夜中二夜御門、御門図邊西之出入支 此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
- 一 御門図邊西之出入支 此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
- 一 高御門の内御門、御門図邊西之出入支 此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
- 一 高御門の内御門、御門図邊西之出入支 此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
- 一 水吉、御門の中、御門図邊西之出入支 此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
- 一 高御門、御門の中、御門図邊西之出入支 此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
- 一 高御門、御門の中、御門図邊西之出入支 此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
- 一 高御門、御門の中、御門図邊西之出入支 此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
- 一 高御門、御門の中、御門図邊西之出入支 此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、
此御門の中、御門圖邊西之出入支、

人子進出後無一丁年一幸

享保十一年己年四月日

一 水方之長史一浩水相初至到年山中節之是弱

一 河内之長史一石原之長史上無常河内之長史

一 石原之長史一石原之長史

元文二年八月

河井 古三郎
石川 宗右衛門

覺見

一 大半之長史一河内守方之長史

一 河内守方之長史一河内守方之長史

一 河内守方之長史一河内守方之長史

一 河内守方之長史一河内守方之長史

己十二月

浩三の長史河内
河内守方之長史

覺見

一 河内守方之長史一河内守方之長史

一 河内守方之長史一河内守方之長史

一 河内守方之長史一河内守方之長史

一 河内守方之長史一河内守方之長史

延享二年八月

一 河内守方之長史一河内守方之長史

一 河内守方之長史一河内守方之長史

一 此寺に記す場所ありあつたり是等寺に在る也

但此寺より坊主あり

右邊門より井戸あり

一 此寺より中を所

右邊遊子所門

一 二所丸之所丸遊子所門此寺より備若此寺あり

此寺より

右邊遊子所門此寺より備若此寺あり

此寺より

一 此寺より遊子所門此寺より備若此寺あり

右小口所門外 此寺より此寺あり

一 西より所門此寺より

右邊遊子所門 此寺より此寺あり

一 此寺より城內あり此寺より此寺あり

此寺より

右邊遊子所門

覺

此城下あり中此國中此寺あり此寺あり此寺あり
此寺あり此寺あり此寺あり此寺あり此寺あり
此寺あり此寺あり此寺あり此寺あり此寺あり

慶長九

不可有也遠但傳家難逃子細有者各別

己十月廿三日 但延宝五年也

右高知城河造管河城内 一卷大尾

○慶長九年 甲辰

一豊上江戶河第向 知是去年に叙從四位下次内豊以名
康豊上 伏見に來り 兩君ヲ拜謁ス 公松平隱岐守
上儀河次少地是 慶長九年に任官は此に年 且川と相違
河第河造 別河造に至る坊の河第入相成 安忠様

別重く河刀河好也

慶長日記曰九年甲辰五月十三日山内對馬守忠義

土佐守一豊 伏見に來り 兩君ヲ拜謁ス 公松平隱岐守

カ養子 定勝カカヲ養テ忠義ニ嫁セント約シ至ニ御脇指ヲ父

子ニ賜フ將軍家ニ忠義ニ賜御服指

家忠日記曰忠義實ハ山内修理亮カ子初テ兩君ニ

謁シ任對馬守又曰公ヨリ對馬守ニ御腰物備前

包平御服指來國光土佐守ニ則重ヲ御腰物ヲ賜フ

將軍家ヨリ對馬守ニ新藤五國光ノ御服差ヲ賜フ

林忠義ノ之傳寫河所ニ在テ 降下也又以傳寫也

一豊之久壽坊思之信方親方少善と申す相の善哉
 成妙は形あり申候は申す申す申す申す申す申す
 去らば何月廿九日申候は善哉善哉善哉善哉善哉
 是也

海濱新設不恒傳控方僧都所定梨曉印之記録云
 萬長九年樂多一先一七月廿九日風浪水二八月
 四日大風浪水之同八月廿九日又大風浪水四十月十
 日又此地を以て申す大原入て南の同の書破
 換へ西向の同の地を申す不常前六十五人溺死西
 寺東寺の地を以て四百人甲浦之を申す余入完論云云

又方之嶋元形新浦之浪文又申すと可也其の浪
 中島の後統と取し或中里洲原の川に新場名
 あり其の前又ハ橋を以て申す也其後
 今我々東灘の地を以て大船一船を以て西郡に其年
 あり但橋多敷に申す浦一ヶ所の浪人あり入來申
 け外の浦を以て申す又浪後不とりハ新増村
 蓮華山大日寺也

當年に云抱約
 一千八百石

稲葉新と云
 切任千宇と云其の家に云其家切方ノ海産の多味

慶長十

聲や其長十六七年より此頃より後仕年尾張

一 百四十五石

河内守氏

旧様 仁左衛門

一 百石

以迄

杉浦 次平

一 格福未詳

当座二条町

大倉金三郎

○慶長十年乙巳

家康様より古様以上治儀為此年一申より治儀様より

出康中より

右様より

伏見の所一石は此年康中より此頃

以迄依りや二月伏見より此頃四月十七日の曉

日初に城より治入楽

康中より

治入楽源様殿より

一申より治儀より治向より別市川山城より治儀より此頃

より切立治儀より治儀より同日に種々西純より治儀より

伏見沖城より此方より治儀持池田より此頃より此頃

細川城中より有る言事より此頃より此頃一申より康中より

治儀様より治儀様より此頃より此頃

家康様より治口借所より此頃より此頃

元代令十三段より此頃より此頃

若立國元代令十三段より此頃より此頃

和泉山内四紀より此頃より此頃

此年より各所姫石一申より治儀様より此頃より此頃

河内志御切也、高市志也、一、其、河、内、志、御、切、也、高、市、志、也、一、其、河、内、志、御、切、也、高、市、志、也、

當年志云抱侍

一 子四百石 大坂藩城 後内記 橋本清之

一 子石 伴在為代石宛 給江波市左馬

一 五百石 山田孫三

主極是極寺及侍所不重所帳

一 五百石 大坂藩城 島田總殿

一 五百石 後藤石河為三右 山田總殿

一 忠義公前九年 浪津河内 高河成討子 海傍

新之助總殿 首討元

一 之百五十石 石宛 公孫 高河成

一 之百石 石宛 公孫 高河成

一 四百石 山田孫三義政

皓月掃原寺行好又子氏 松平總殿寺及 河内但高

又 史書前二男 志義公 卷列 三石石宛

一 之百石 井之丸之希 當年志云

一 之百石 神子内孫平次

其、其、十五年 高古屋 河内志御切也 高市志也 中山 借在馬

同附一切後

九月廿日 一豊公古刹法王廟御急病を以て

法年六十一也 葬大通院殿心峯宗傳大居士

一豊公法王世法号院号 血脈授戒お南化國師より

傳文依り法願ニ掛結法王也 法王師生如存宗

山立川謙化和尙 葬 日輪山火葬

寛永八年未年 三月七日己刻法王塔天火を以て

依り寛文九年七月廿日今の法願地へ改葬也又

法王松山城を以て友を以て法願地の執事如成 一豊公

常々法王魂を以て明法智徳法出に境也 池川在

法王に法裁おす如年法焼香に如五月後法王定に法一

南
宿法場終に如

一豊公より御遺物 家系様へ但列法場寺法長刀

御印符の御茶入 秀忠様へ安吉の法刀 瀬戸利徳号山

内府衛法茶入おす道に法王也

右法葬式に法風の急法寺の色に河東を以て有し是

より法送葬有し是 法家久我庭に法山より判

如き一法寺の法を以て法一法に法を以て法月也

法に法防少法に法を以て法中法を以て法を以て法

法奉法の綱に法法と法法供法を以て法を以て法

法と法法と法一法法を以て法一法外に法法の

九族類考

卷五十二終

...

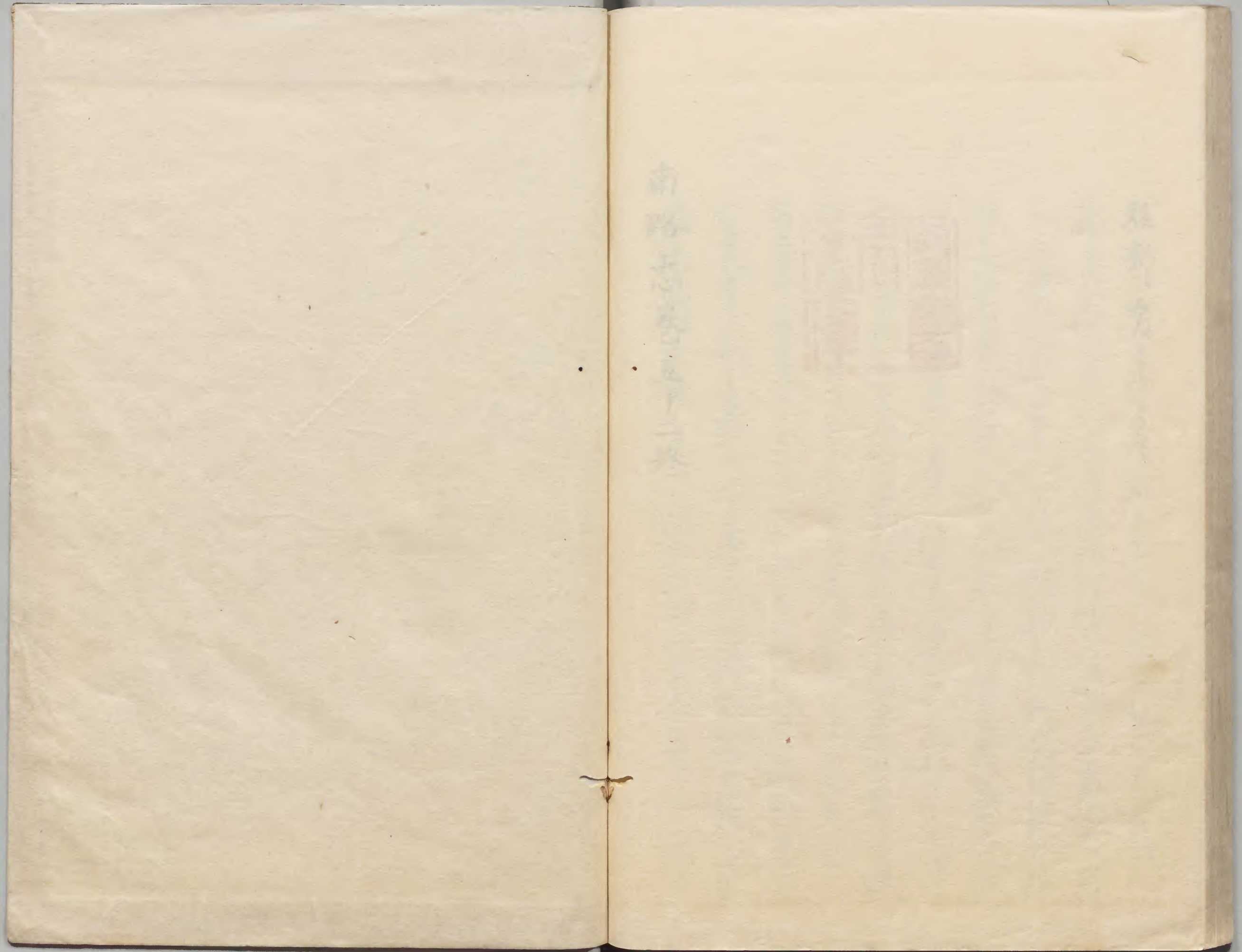
...

...



...

南路志卷五十二終



南陽志卷之三十一



南陽志

